

令和7年度 第3回東郷町地域ケア推進会議

日時	令和7年10月16日(木) 午後2時から午後3時30分まで
場所	東郷町民会館2階 大会議室
出席者	<p>委員 ※敬称略、順不同</p> <p>制野 司 有識者（学校法人柳城学院）</p> <p>松浦 誠司 医師（東名古屋東郷町医師会）</p> <p>横井 昭博 歯科医師（愛豊歯科医師会東郷支部）</p> <p>福島 美佐子 訪問看護師（東郷町訪問看護ステーション連絡協議会）</p> <p>磯村 達己 東郷町社会福祉協議会</p> <p>早川 孝志 東郷町北部地域包括支援センター</p> <p>村井 良則 有識者（東名古屋医師会医療介護総合研究センターやまびこ）</p> <p>池田 寛 有識者（豊明東郷医療介護サポートセンターかけはし）</p> <p>半田 清春 東郷町民生委員児童委員協議会</p> <p>野々山 次夫 東郷町民生委員児童委員協議会</p> <p>岡田 伸一 施設サービス関係（愛厚ホーム東郷苑）</p> <p>朝倉 隆行 居宅サービス関係（メドック東郷）</p> <p>松山 陽二 居宅介護支援事業所（もみの木）</p> <p>小島 通範 住民代表（第1号被保険者）</p> <p>海老原 由美 住民代表（第2号被保険者）</p> <p>古橋 完美 瀬戸保健所 健康支援課</p> <p>森本 美香 暮らし健康部 成人保健推進室</p>
欠席者	<p>柳 ゆかり 理学療法士（東郷町リハビリテーション連絡協議会）</p> <p>荒川 和枝 東郷町南部地域包括支援センター東郷苑</p> <p>佐藤 裕美 薬剤師（東郷町薬剤師会）</p>
傍聴者	1名
事務局	<p>福祉こども部長</p> <p>高齢者支援課課長（進行）</p> <p>高齢者支援課の職員 4名</p>
議題	<p>1 あいさつ</p> <p>2 報告事項</p> <p>令和7年度在宅医療・介護連携推進部会について【資料1、参考資料1】</p> <p>3 議題</p> <p>第10期高齢者福祉計画策定に係る認知症支援者ヒアリングシート（案）及びアンケート調査票（案）について【資料2-1～2、資料3～6及び参考資料2-1～2-5】</p>
配布資料	<p>会議次第</p> <p>資料1 令和7年度第1回及び第2回在宅医療・介護連携推進部会報告書</p> <p>資料2-1 第10期東郷町高齢者福祉計画策定に係る認知症支援者ヒアリング調査について（概要）</p> <p>資料2-2 東郷町 認知症に関する団体・支援者ヒアリングシート（案）</p>

資料3	東郷町介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（案）
資料4	東郷町在宅介護実態調査（案）
資料5	東郷町ケアマネジャー調査（案）
資料6	東郷町介護サービス事業者調査（案）
参考資料1	参考 ACP及び電子@連絡帳の取組まとめ
参考資料2-1	東郷町介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 修正箇所一覧
参考資料2-2	東郷町在宅医療介護実態調査 修正箇所一覧
参考資料2-3	東郷町ケアマネジャー調査 修正箇所一覧
参考資料2-4	東郷町介護サービス事業者調査 修正箇所一覧
参考資料2-5	各調査票 訂正箇所一覧

1 あいさつ

2 報告事項

令和7年度在宅医療・介護連携推進部会について

事務局	資料説明。 資料1 参考資料1
委員長	ただいまの事務局の説明について、ご質問等はあるか。
委員	参考資料1の令和7年度 専門職向けの予定として『12月に多職種ミーティング「ACPについて」』と記載があるが、これは2月12日に変更されているはずである。日程の修正をお願いする。
事務局	大変申し訳ない。12月は災害の話をテーマとし、藤田医科大学の先生を招き実施する。「ACPについて」は2月12日に実施する。参考資料の該当箇所の修正をお願いする。
委員長	他に何かご意見がある場合は、最後のまとめの際にご発言いただければと思う。以上で報告は終了する。それでは、議題に移る。 今回の調査票は分量が多いため、調査票ごとに説明、ご意見をいただきながら進めていく。なお、大きな修正は今回の会議が最後となるので、ご意見がある場合は、積極的なご発言をお願いする。

3 議題

第10期高齢者福祉計画策定に係る認知症支援者ヒアリングシート（案）及びアンケート調査票（案）について

事務局	資料説明。 資料2-1 資料2-2
委員長	ただいまの事務局の説明について、ご質問等はあるか。 資料2-2の5ページ「問9-1 そのように感じる理由を教えてください。（あてはまるものすべてに○）」とあるが、ここは自由記述のため「あてはまるものに○」の文言は不要である。
事務局	大変申し訳ない。自由記述なので文言の修正をする。
委員	自分が回答する立場になったつもりで調査票を確認した。3ページの間4の前に黒枠で「活動における課題や必要な支援」とあり、4ページの間6の前に黒枠

	<p>で「認知症支援での課題や必要な取組について」と記載されている。問4と問6は内容が同じように受け取られる可能性があると感じた。</p> <p>資料2-1の4調査内容の調査項目には、活動における課題や必要な支援の下段に「支援者の方の状況や考えを回答いただく項目」、認知症支援での課題や必要な取組についての下段には「認知症施策全体について支援者の方の考え方を回答いただく項目」と補足が記載されている。しかし、調査票では両設問とも「あなたの考えを記入してください」としか書かれていないので、概要に書いてあるような補足を黒枠の中に入れていただくと、回答者も設問の意図を理解しやすくなり、より適切な回答につながるのではないかと考える。</p>
委員長	この件について事務局より回答はあるか。
事務局	確かにわかりにくい表記であったので、いただいたご意見をふまえ修正をする。ご指摘いただき感謝する。
委員長	では次のアンケート調査票にうつる。
事務局	資料説明。資料3及び資料2-1・5
委員長	<p>ただいまの事務局の説明について、ご質問等はあるか。</p> <p>資料の内容が多いので、目で追うのも大変である。</p> <p>誤植の指摘である。資料3の5ページ 問27において「(1つ選択)」と記載されているが、「(1つ選択)」に修正をお願いします。</p>
事務局	大変申し訳ない。修正をさせていただく。
委員長	<p>星印の設問は国から出ているものであり、内容に手を加えるのは難しい。そうでない部分を中心にご意見をいただきたい。</p> <p>ご意見でもご質問でも構わないので、遠慮なく発言いただきたい。</p>
委員	<p>9ページ「問48 あなたは、医療や介護が必要になったときに、どこで過ごしたいですか。(1つ選択)」について、選択肢に「医療機関」、「介護施設」とあるが、これは本人の状態によって、本人がその時点でどちらかを選べるのか疑問である。この2つを分ける必要があるのか疑問に思った。</p> <p>10ページ「問53 あなたが日常生活で使っている支援(サービス)はどれですか」の設問において、サービスを利用していない場合に「その他」を選ぶのは適切ではないので、「使っていない」という選択肢を設けてはどうか。</p>
事務局	<p>9ページ問48について、「本人の状態によっては希望として選べないのではないか」とのご意見をいただいた。設問は「どこで過ごしたいですか」となっており、あくまでも希望をお聞きする形としたい。</p> <p>また、問53について、「現在サービスを利用していない方が回答しづらいのではないか」とのご意見をいただいたので、「使っていない」という選択肢を追加する。</p>
委員長	9ページ「問48 あなたは、人生の最期をどこで迎えたいですか。(1つ選択)」の設問を自分の母親に聞いてみた。自宅でも施設でもよいと考える人はいる。母は「面倒をかけたくないから施設でもよい。よい施設もたくさんある」と話していた。そのような考え方もあるため、1つに選択することが難しいと感じる部分もある。調査票全体を見ていて、回答に悩む設問がいくつかあると感じた。

委員	私も問 48 の回答に悩んだ。1つ選択という限定は本当に必要なのか。複数選択にするか、「考え難い」という選択肢を追加する等を検討してもよいのでは。また、医療機関でも介護施設でも、どちらでもよいと考える人もいると思う。
委員長	余談ではあるが、最近の調査では、最初の概要部分に「何分くらいで調査が終わります」と記載があることが多い。回答者にとっては安心感につながり、「これくらいの時間であれば回答できそうだ」と思ってもらえる。最近のアンケートの傾向でもあるため、参考にさせていただければと思う。
事務局	先ほどの問 48 について、「1つ選択」のまま「わからない」、「どこでもよい」などの選択肢を追加する検討もしたいが、どのような選択肢を加えるとよいか、委員の皆さまのご意見を伺いたい。
委員長	事務局より「1つ選択」ができるような選択肢を追加するという提案であった。
事務局	「1つ選択できるような選択肢を増やしたい」という方針で進めたいと考えている。
委員長	どのような選択肢があればよいか、委員の皆さまよりご意見を伺いたい。事務局として「1つ選択」にしたい理由は何かあるのか。
事務局	1つ選択にしたほうが回答が明確になり、パーセンテージも算出しやすい。複数選択となると、結果から優先度や順位が分かりにくくなるという懸念がある。 問 48 と問 49 については、複数回答のほうが回答しやすいということであれば、複数選択とする方向で検討していきたい。
委員	どのように分析するかを考えたときに、選択肢があったほうが分析しやすいので「わからない」という選択肢を入れたほうがよいと考える。また、選択肢の中に回答がない場合は「その他」の欄に記載いただいたほうが分析しやすいのではないか。
委員長	「わからない」という選択肢を増やしたほうが分析しやすいのではとのご意見をいただいた。 東郷町のために、その結果をどう活かしていくかという最終的な着地点において、何がいちばん正しいのか、何がいちばん正しいに近いのかということが、アンケートでは重要である。まずはその選択をやってみて、次回以降に変更していくという対応も考えられる。今ここで決めるということであれば、今の段階で決断してもよいと思う。回答者が高齢者となってくるので、回答に悩まれる方も多いのではと感じており、私自身も気になっていた設問である。 事務局からは「複数選択も可能」とのご提案をいただいているが、委員の中には「分析の方法を考えると、1つ選択にしたほうがよい」との意見もあった。
事務局	前回の調査結果を見ると、比較的是っきりと選択いただいている傾向がある。「不明」、「無回答」、「その他」を含めても5%程度であり、それ以外の方は、いずれかを選択されており、最も多かったのは「自宅」であった。東郷町では、ある程度ははっきり選択いただいていると感じている。
委員	東郷町の出張講座の際に実施しているアンケートでも、同様の質問を行っており、「まだわからない」、「特にこだわりなし」といった選択肢を設けているのだが、これまでの集計結果において、この回答を選択される方が比較的多く見られ

	る。参考にさせていただけたらと思う。
事務局	設問の文章を「どこで最も過ごしたいですか」と修正し、選択肢に「わからない」を追加するのはどうか。
委員長	委員の皆さまはいかが思うか。
委員	この設問で、「まだ決めていない」、「わからない」という人が、どのくらいいるかを把握する必要があるのか。特に把握の必要がなければ、これまで通りの設問と選択肢のままではよいのではないか。 実際には「決めていない」、「わからない」人が多いかもしれないので、これらの選択肢を加えることで、そうした層の存在を把握できるかもしれない。一方で、選択肢を追加すると、これまでの経年比較が困難になる。
委員長	アンケートである以上、経年比較を行うという観点からは、質問内容を変更することに難しさがある。
事務局	まず、この場でご意見をいただき、事務局と委員長で決定させていただくという形で進めていく。
委員長	委員の皆さまより、貴重なご意見をいただいたと認識している。それ以外にご意見がある場合は、一両日中に事務局までご連絡いただきたい。その後は、委員長と事務局に一任させていただく形で進めていきたいが、委員の皆さまはいかが思うか。
委員一同	委員長と事務局に一任する。
委員長	では、先ほどいただいたご意見を基に検討を進めていく。 それでは、引き続き事務局より説明をお願いします。
事務局	資料説明 資料4 、 参考資料2-2・5
委員長	ただいまの事務局の説明について、ご質問等はあるか。
委員	6 ページ『問 11 問 9 で「1. 知っている」と回答した方にお伺いします。あなたは地域包括支援センターを利用したことがありますか』とあり、選択肢 1「利用したことがある」→問 12 へととなっているが、この記載を見る限り、問 12 が削除されたということなのか。
事務局	そうである。
委員	前回の会議の資料では、「今後も地域包括支援センターを利用したいですか」という設問に対し、「はい」、「いいえ」で具体的な項目が入っていたが、今回はその部分が削除されている。何か理由はあるのか。
事務局	旧問 12 についてだが、独自設問であり、問 11 で「地域包括支援センターを利用したことがある」と回答した方が、今後もセンターを利用したいですか、という利用意向を問うものであった。回答者の大半が要支援・要介護認定者であるため、センターをあまり利用する機会が少ないことから、有効な設問ではないと判断し削除した
委員	今の説明で理解できた。
委員	調査票のタイトルが黒色背景に黒字となっており、タイトルの文字が読み取りづらいので、見やすくしてほしい。 10 ページの問 3 主な介護者の方の年齢についてご回答ください（1 つ選択）

	とあり、いちばん若い年齢の選択肢は「1.20 歳未満」なのだが、ヤングケアラーは一般的に 18 歳以下とされている。その点がわかるように何らかの考慮をしているのか。
事務局	<p>調査票のタイトルについてだが、コピーの印刷の関係で見づらいものを渡しており、大変申し訳なかった。対象者に配布するものについては、見やすいものを作成する。</p> <p>問 3 の年齢を何う設問についてだが、国で設定されている設問であるため変更できない。ヤングケアラーについて考慮されているかどうかは把握しておらず申し訳ない。</p>
委員	「問 16 あなた自身が、地域の人に対して手助けや協力できることは何ですか（複数選択可）」とあるが、回答者は要支援・要介護認定者である。その中で、選択肢に「災害時の手助け」、「交通安全防犯活動（地域の見回り）」とあるが、実際に対応が可能なのが疑問である。
事務局	前回の調査結果でも、同じ内容を設問として設けていた。その際の回答としては、「特になし」が 39.8%で最も多く、「声かけ」が 39.7%、「話し相手」、「安否確認」、「災害時の手助け」と続いていた。できることを選べるような選択肢を加えていると認識している。
委員長	<p>「特になし」と回答した方は、何もできないという方であり、全体の約 4 割であった。あとの 6 割の方は、要支援・要介護認定者であっても何か協力できることがあるという結果であった。この選択肢は、その 6 割の方が回答できるように設定しているものである。</p> <p>では、引き続き、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	資料説明。資料 5 参考資料 2-3・5
委員長	<p>ただいまの事務局の説明について、ご質問等はあるか。</p> <p>5 ページ「問 16 業務中に、ケアマネジャーとしての本来の業務以外で対応している仕事があれば、具体的にお書きください」については、回答形式が自由記載であるが、無回答でも差し支えないか。</p>
事務局	本来の業務以外で対応している仕事がなければ無回答でもよい。
委員長	<p>全体的に設問項目を見ると、内容が充実してきたという印象である。ケアマネジャーの負担については、業務以外の対応が求められているという話もあった。</p> <p>では、引き続き、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	資料説明。資料 6 参考資料 2-4・5
委員長	<p>ただいまの事務局の説明について、ご質問等はあるか。また、全体を通して、ご意見やご質問はあるか。特にないようであれば、事務局で取りまとめをさせていただく。本日、委員の皆さまからいただいたご意見については、事務局が取りまとめ、12 月に送付するアンケートに反映させる予定である。次回の 11 月の会議において、アンケートの完成版をお示しする。なお、今後のアンケート作成過程において、軽微な修正については、委員長と事務局に一任する形で進めたいと考えている。本日は、委員の皆さまから忌憚のないご意見をいただいたことを感謝申し上げます。</p>

	以上をもって、本日の議題は終了とする。進行を事務局にお返しする。
事務局	続いて、事務連絡を行う。次回の会議は、令和7年11月28日（金）14時から町民会館3階の視聴覚室にて開催を予定している。改めて、開催案内をお送りするので、よろしく願います。 以上をもって、令和7年度第3回東郷町地域ケア推進会議を終了する。長時間にわたりご審議いただき、感謝申し上げます。

以上